

# 2023年2月期（2022年度） 第3四半期 決算補足資料

イノベーションとコミュニケーションで  
社会の豊かさを支える

株式会社ベルシステム24ホールディングス

2023年01月11日

証券コード：6183



- 売上収益は1,176億円、営業利益119億円、四半期利益77億円と前年同期比で着実に増加
- 特に営業利益は、前年同期比+11.4%と大きく増加

連結業績	売上収益	1,176億円	前年同期比	+7.3%
	営業利益	119億円	前年同期比	+11.4%
	親会社の所有者に 帰属する四半期利益	77億円	前年同期比	+4.5%

# 2023年2月期（2022年度）第3四半期 決算概要

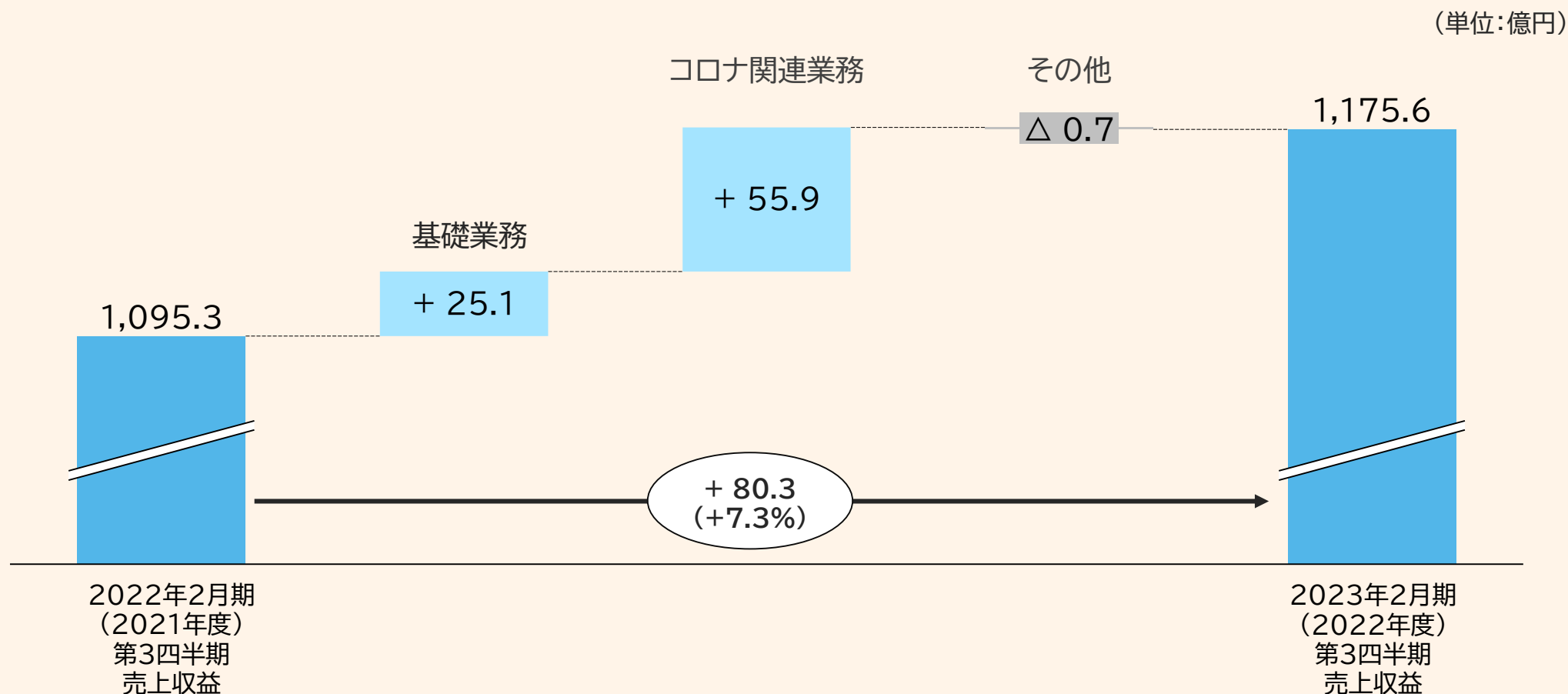
- 売上収益、営業利益、四半期利益いずれも、連結業績予想に対して順調な進捗
- 基礎業務は988.3億円、前年同期比+25.1億円(+2.6%)とほぼ想定通りの着実な増加
- コロナ関連業務は180.3億円、前年同期比+55.9億円(+44.9%)と大幅増加

(単位:億円)

	2022年2月期 (2021年度) 第3四半期	2023年2月期 (2022年度) 第3四半期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	連結業績予想	進捗率
売上収益	1,095.3	<b>1,175.6</b>	+ 80.3	+ 7.3%	1,480.0	79.4%
内、基礎業務	963.2	<b>988.3</b>	+ 25.1	+ 2.6%	1,331.0	74.3%
内、コロナ関連業務	124.4	<b>180.3</b>	+ 55.9	+ 44.9%	140.0	128.8%
内、その他	7.7	<b>7.0</b>	△0.7	△9.1%	9.0	77.6%
営業利益	106.7	<b>118.8</b>	+ 12.1	+ 11.4%	140.0	84.9%
営業利益率	9.7%	10.1%			9.5%	
親会社の所有者に帰属する四半期利益	73.3	<b>76.7</b>	+ 3.4	+ 4.5%	92.0	83.3%

# 2023年2月期（2022年度）第3四半期 売上収益の増減分析

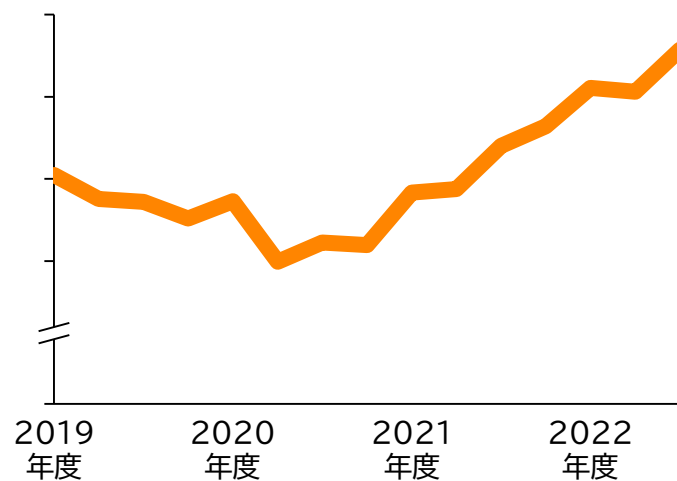
- 売上収益は1,175.6億円で、前年同期比+80.3億円(+7.3%)の増加
- 基礎業務は人材・教育関連業務、Eコマース・通販業務等の非対面関連業務、キャッシュレス決済関連業務の拡大が継続しており、前年同期比+25.1億円(+2.6%)の増加
- コロナ関連業務は第1四半期、第2四半期に比べると減速するも、第3四半期も業務が継続延長されたことにより、前年同期比+55.9億円(+44.9%)の増加となり、前年度通期実績175.4億円を既に上回る進捗



- 当第3四半期の人材・教育関連業務は、第1四半期、第2四半期の水準を上回り、2020年度以降、増加を継続
- 当第3四半期の非対面関連業務は、通販関連業務、Eコマース関連業務が堅調に推移したことに加え、デリバリー関連業務等が大きく増加
- 当第3四半期のキャッシュレス決済関連業務は、主にクレジットカード関連業務が増加し、堅調に推移

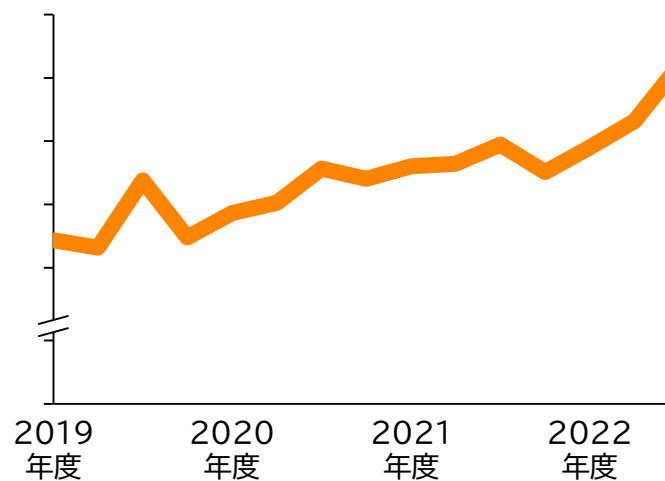
## 人材・教育関連業務

売上収益推移



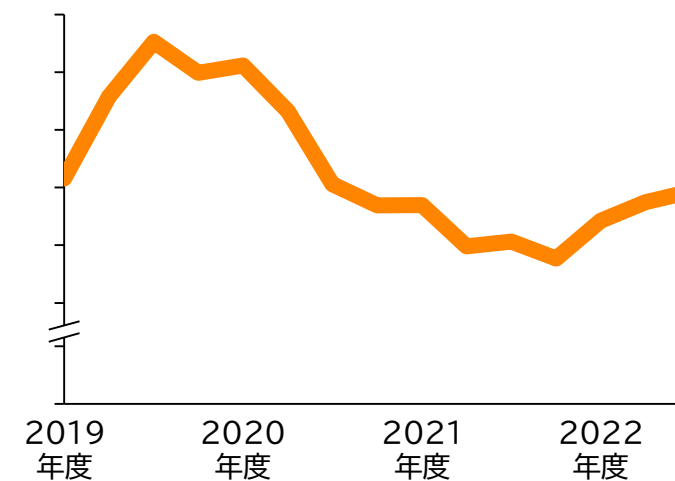
## 非対面関連業務

売上収益推移



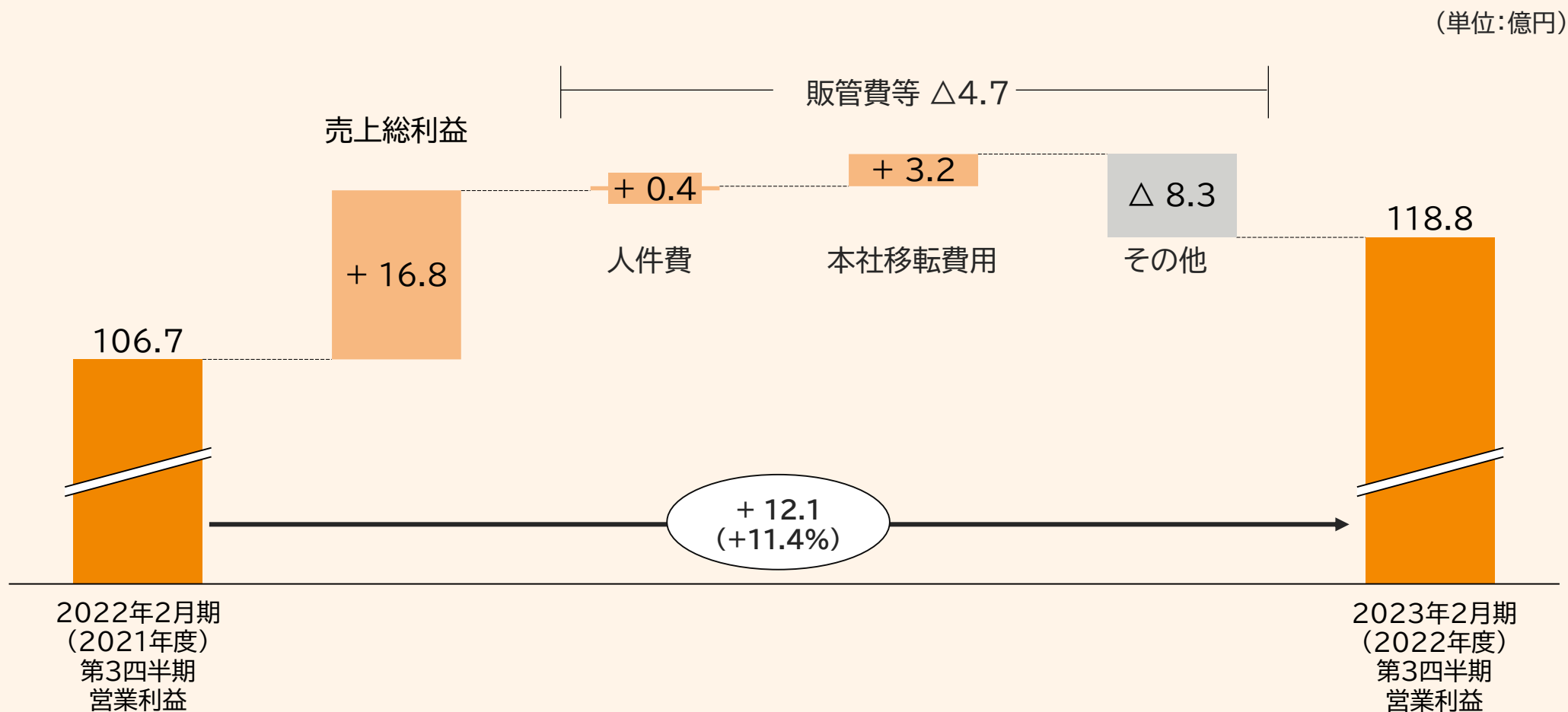
## キャッシュレス決済関連業務

売上収益推移



# 2023年2月期（2022年度）第3四半期 営業利益の増減分析

- 営業利益は118.8億円で、前年同期比+12.1億円(+11.4%)の増加
- 売上総利益は、基礎業務、コロナ関連業務の増収効果により、前年同期比+16.8億円の増加
- 販管費等は、前年度に発生した本社移転関連費用3.2億円が減少した一方、ITシステム費用、旅費交通費、創立40周年記念イベント等に係る広告宣伝費等の増加により、合計では前年同期比△4.7億円の減益要因

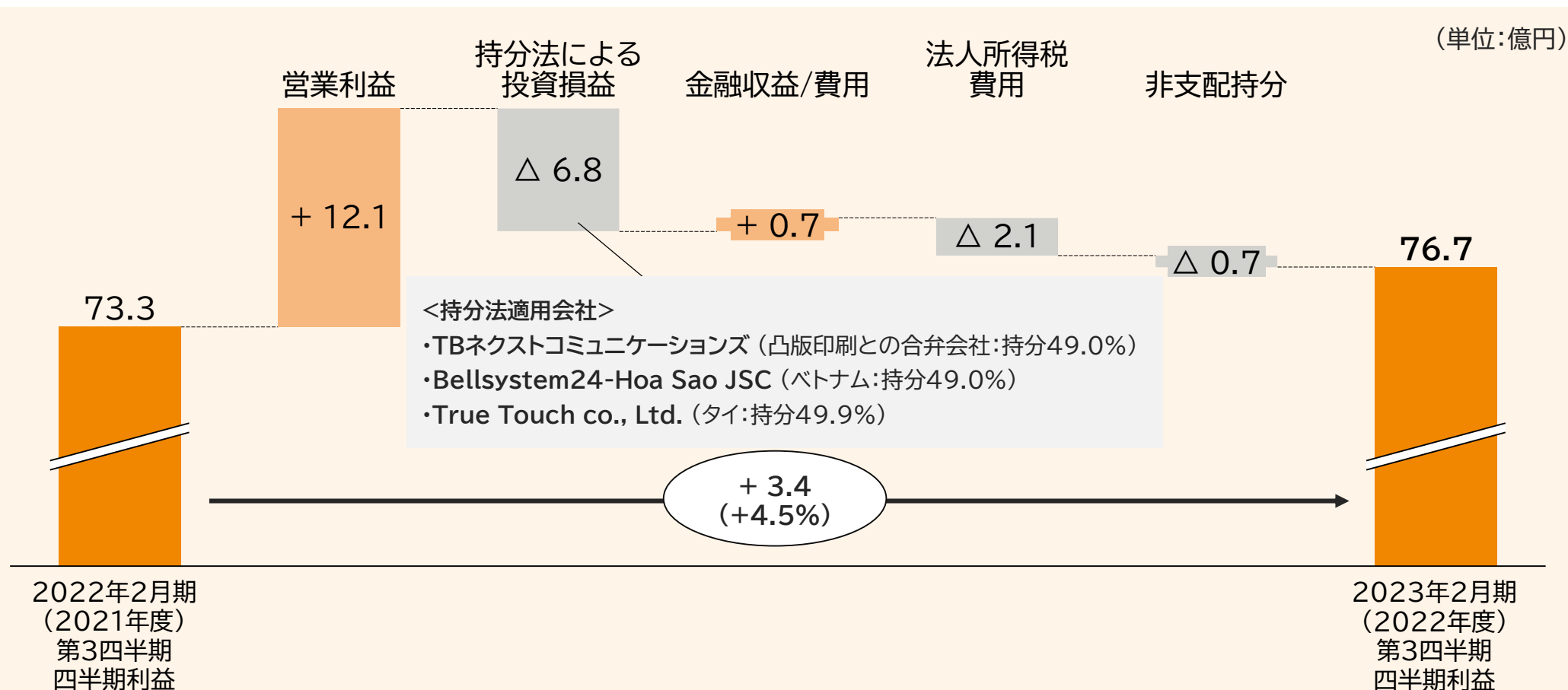


※ 販管費等には、販管費、及びその他収益/その他費用が含まれる

# 2023年2月期（2022年度）第3四半期 四半期利益の増減分析

- 四半期利益は76.7億円で、前年同期比+3.4億円(+4.5%)の増加
- 前年同期比で営業利益は+12.1億円増加するも、持分法による投資損益は△6.8億円の減少
  - ・ TBネクストコミュニケーションズは、前年度の好業績の反動減により前年同期比で大きく減少
  - ・ ベトナムのBellsystem24-Hoa Sao(※)、及びタイのTrue Touchは、前年同期比でほぼ横ばい

※ 2022年12月21日開催の取締役会で、Bellsystem24-Hoa Sao株式の追加取得を決議し、2023年3月1日付で子会社化(持分80.0%)を予定

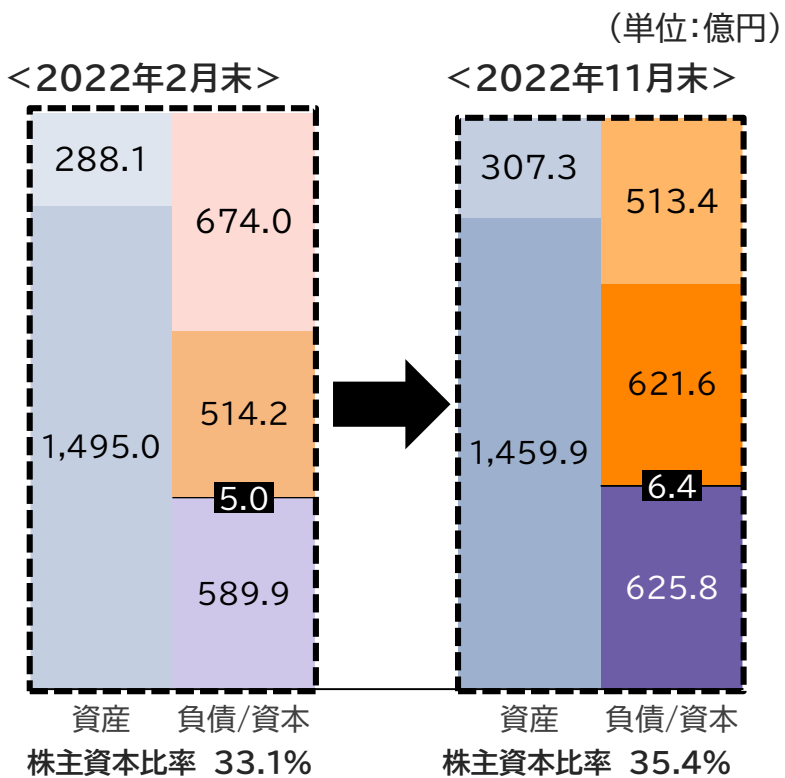


※ 四半期利益＝親会社の所有者に帰属する四半期利益

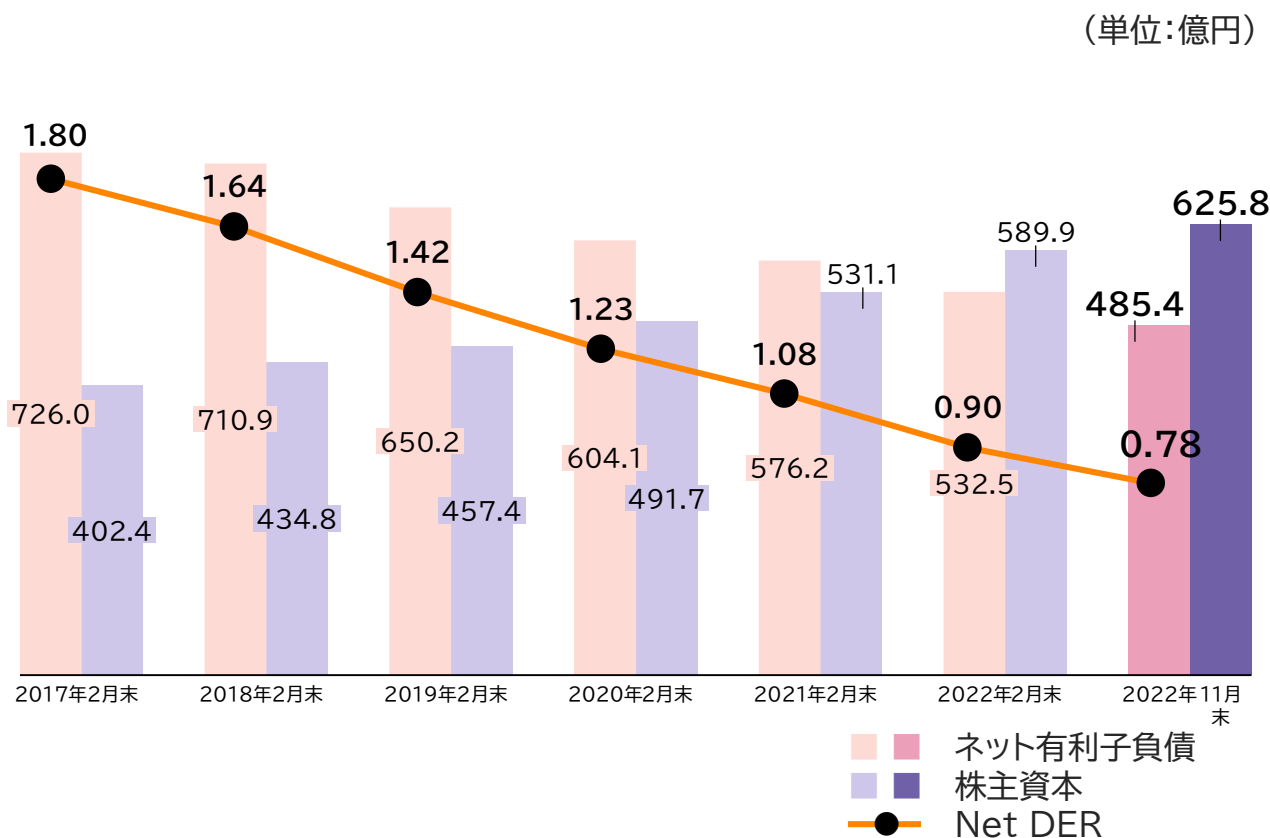
# 2023年2月期（2022年度）第3四半期 連結財政状態計算書

- 2022年11月末の株主資本は625.8億円と、前年度末589.9億円から+35.9億円の増加
- 株主資本比率は前年度末比+2.3%上昇して35.4%
- ネット有利子負債残高は485.4億円と、前年度末532.5億円から△47.1億円の減少、Net DERは0.78倍に改善

## 連結財政状態計算書の概要



## Net DER等の推移



■ 流動資産    ■ 流動負債    ■ 非支配持分  
■ 非流動資産    ■ 非流動負債    ■ 株主資本

※ 株主資本 = 親会社の所有者に帰属する持分



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー +144.7億円

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー ▲4.0億円

主な内容

設備投資

- ・有形・無形資産の取得による支出 ▲13.9億円

事業投資

- ・有価証券の取得による支出 ▲5.3億円

（クレジットカード業界向けフィンテックビジネスでの新サービス拡大を目的とした当該事業等への出資）

- ・有価証券の売却による収入 +14.4億円

（医薬関連株式の売却によるもの）

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー ▲131.5億円

主な内容

- ・短期/長期借入金の増減額 ▲38.3億円

- ・配当金の支払額 ▲44.1億円

- ・リース負債の返済による支出 ▲48.4億円

（使用権資産に対応した支出額）

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

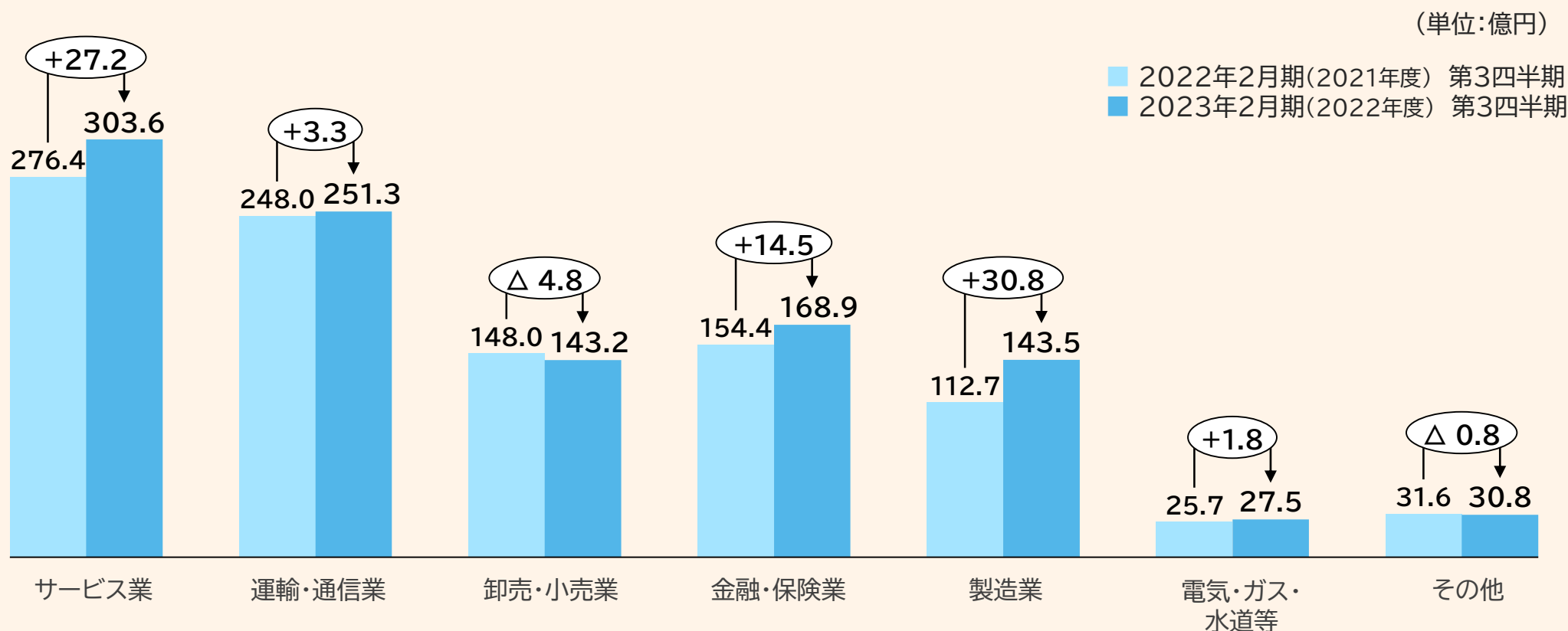
（単位：億円）

	2022年2月期 (2021年度) 第3四半期	2023年2月期 (2022年度) 第3四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	125.5	144.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 18.2	▲ 4.0
内、有形・無形資産の取得による支出	▲ 17.9	▲ 13.9
内、有価証券の取得による支出	▲ 1.0	▲ 5.3
内、有価証券の売却による収入	-	14.4
フリーキャッシュ・フロー	107.3	140.7
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 92.0	▲ 131.5
内、短期借入金の増減（△は減少）	9.0	52.0
内、長期借入れによる収入	120.0	200.0
内、長期借入金の返済による支出	▲ 142.0	▲ 290.3
内、配当金の支払額	▲ 33.1	▲ 44.1
内、リース負債の返済による支出	▲ 45.5	▲ 48.4

※ フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

# 2023年2月期（2022年度）第3四半期 業種別売上収益

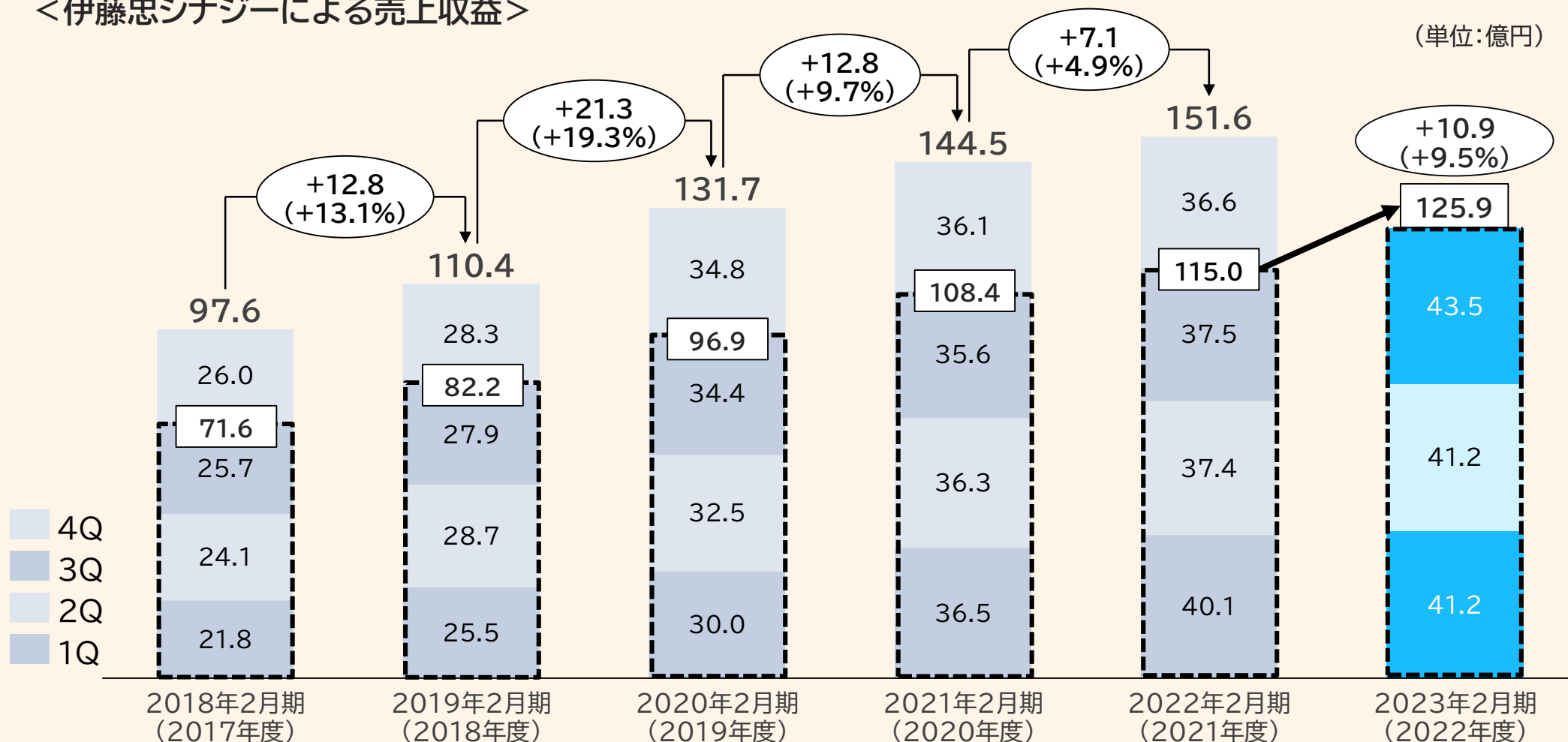
- 「サービス業」は、人材・教育関連業務、デリバリー関連業務等の拡大を中心に+27.2億円の増加
- 「金融・保険業」は、保険関連、キャッシュレス決済関連の業務拡大等により+14.5億円の増加
- 「製造業」は、主にコロナ関連業務の拡大により+30.8億円の増加



※ (株)ベルシステム24単体の売上収益上位300社が対象

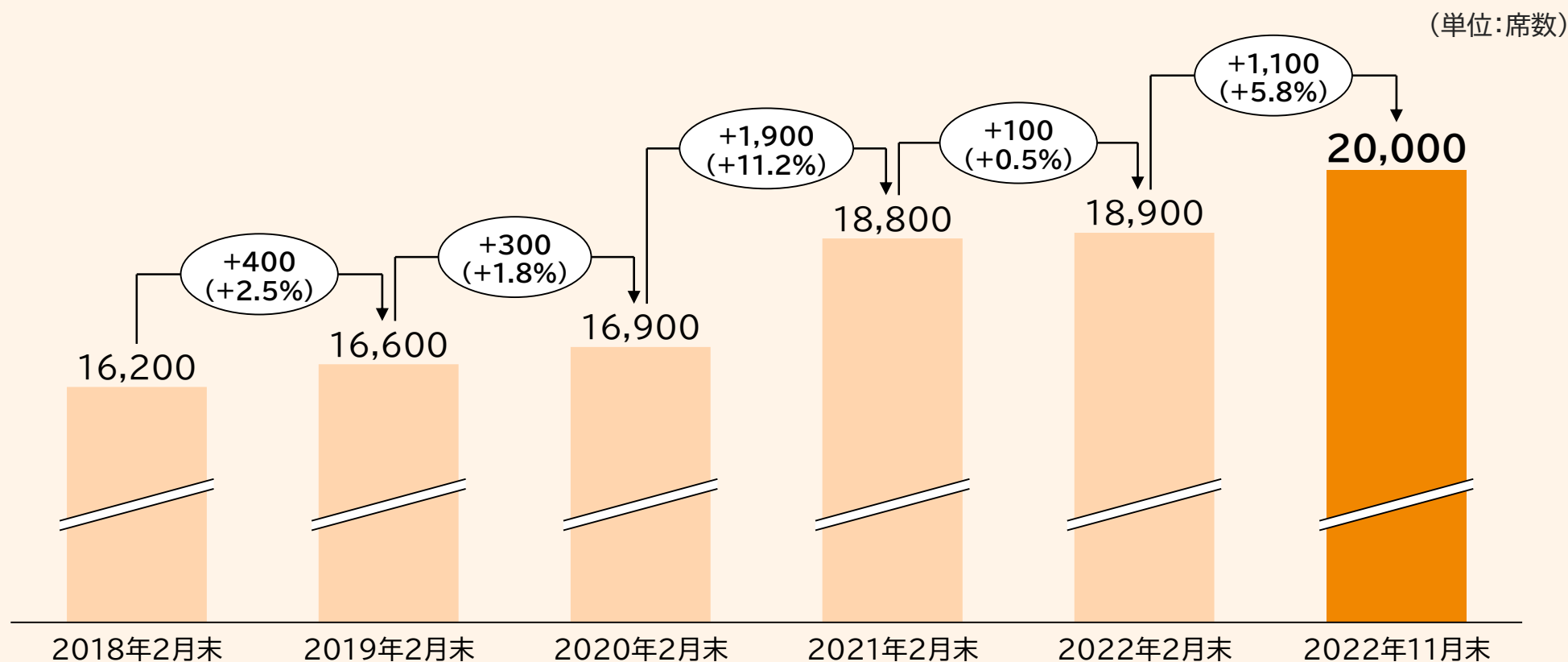
伊藤忠シナジーの売上収益は、125.9億円、前年同期比+10.9億円(+9.5%)と着実に増加

## <伊藤忠シナジーによる売上収益>



# 2023年2月期（2022年度）第3四半期 拠点ブース数の状況

- 2022年11月末の国内拠点は39拠点、ブース数は約20,000席（前年度末比で約1,100席増加）
- 基礎業務の拡大タイミングを見据え、新規・既存センターの構築、拡張等を継続

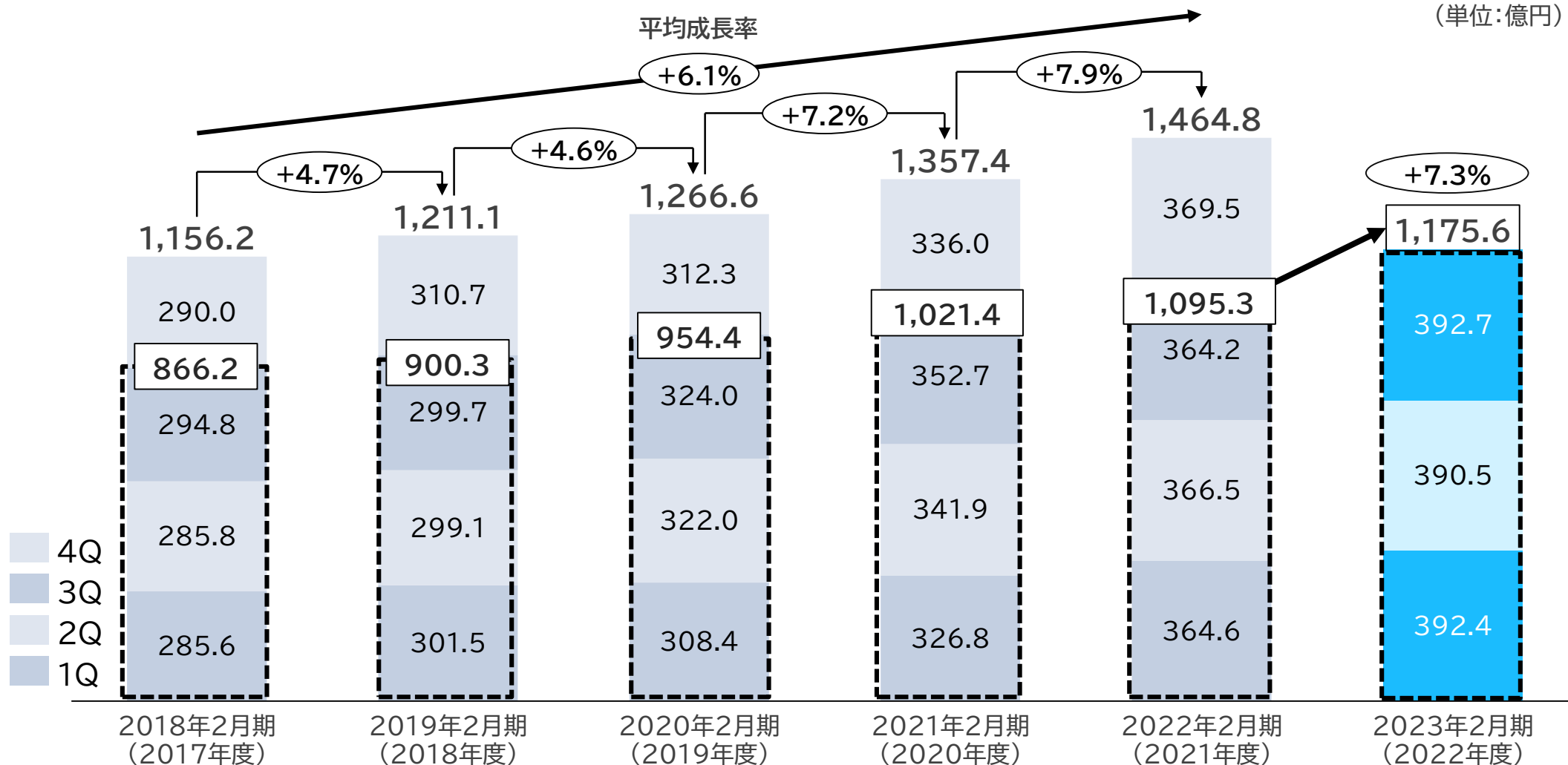


※ ブース数は、当社の国内拠点におけるオペレーション業務を実施する席数で、クライアントオフィスやレンタルオフィス(約15,000席)を除く

# APPENDIX

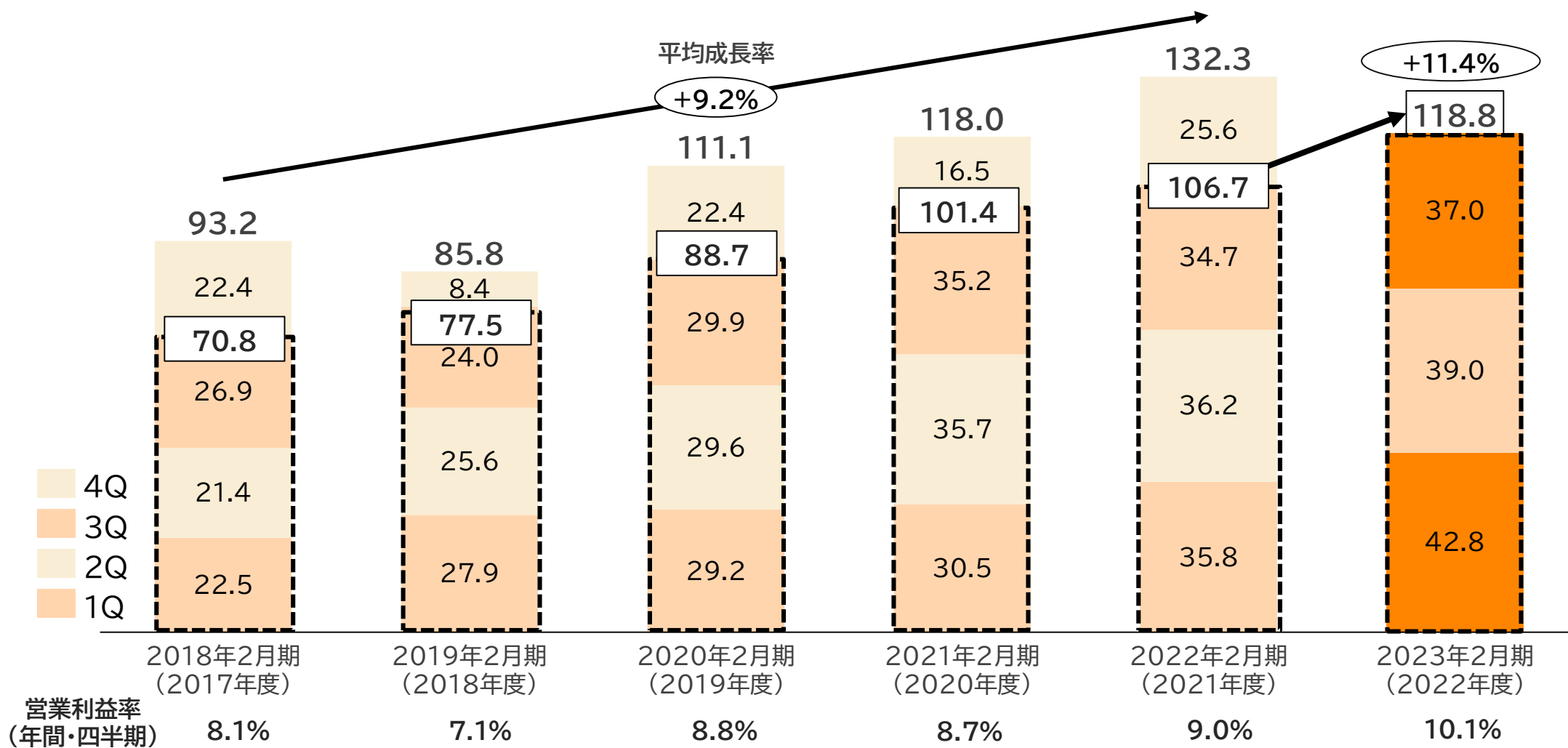
# 売上収益の推移

(単位:億円)

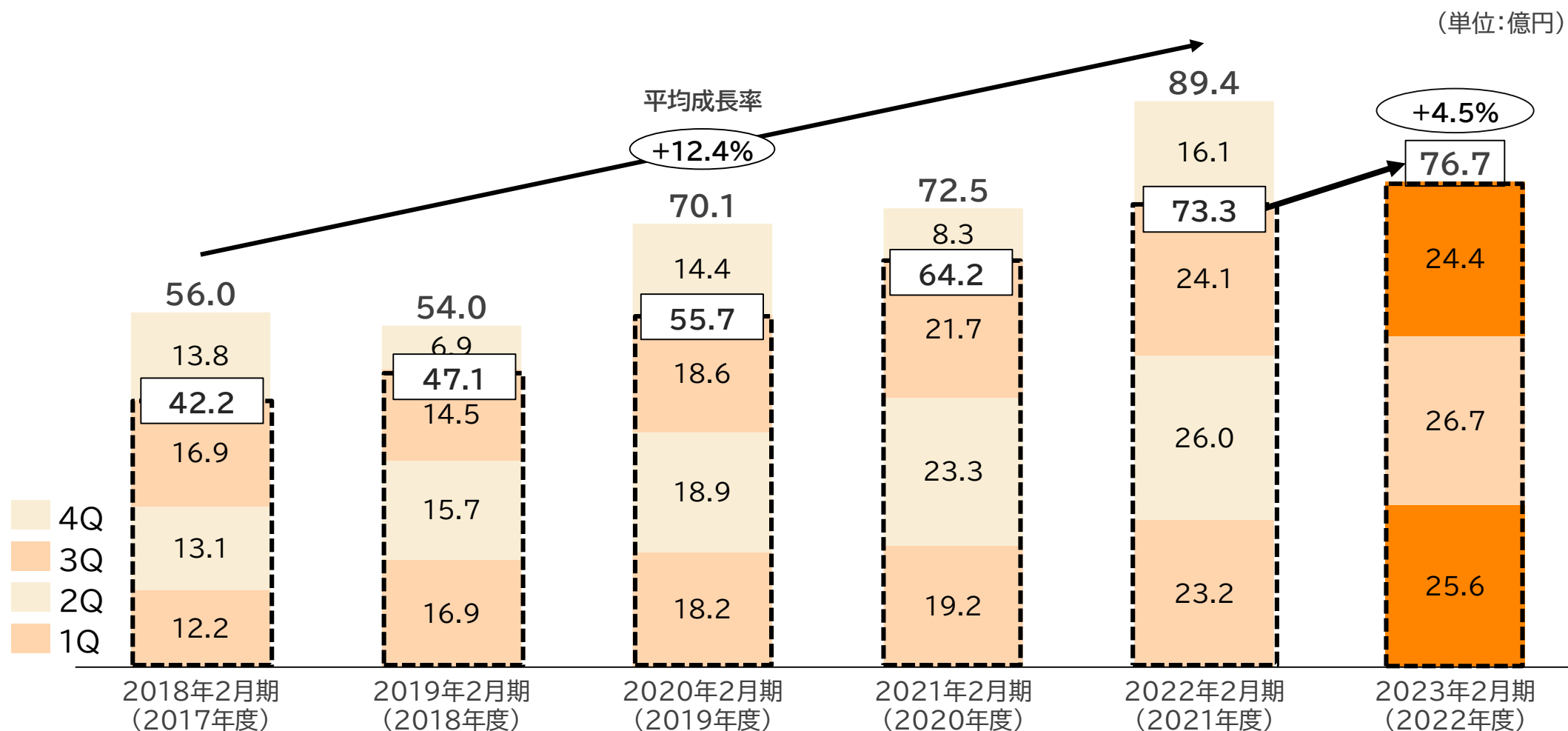


# 営業利益の推移

(単位:億円)



# 四半期利益の推移



※ 四半期利益 = 親会社の所有者に帰属する四半期利益



## ご注意

本説明および参考資料の内容には、将来の当社業績に関する見通しが含まれていますが、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづくものであり、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、これら業績に関する見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

